特別
へ5
6068
2

共二卷
雲煙家藏書記
永保
横山重

摩埼詠藻集 下

抑寛永六酉三月中旬より書つゞけ
初めを立てのつゝ人間うり者乃
馬上のあらまし草より詠藻狂歌を
始めうりて多くの作り有り尚
の世史よりもむかしの矢立の筆を
記し置けりと今これハ人もの

ひろく先三条の橋を折ふり笑
武川をとりたるにかゝるやうにて
そうもかうもひろう西さまとが
畠田はるかに十日の器より畠とり
山の見られハ
雪とりて畠とりしのあるさが
山科の雪を行ハ乃とり南より坊とり
本高きさ拾一村のり市ちん神ゆ

森とふ
十月の神ゆ
この森の東より
そこの辻を近分とちんきて
馬牛をちひて十二月が
北行るハ東をやこの逢坂より
大雪とり岩角ゆ関ゆ
坂をふ山の海のなの

くと尽く作りめるを
所波を引きうちて小舟の二かりが
波を打出の浦より出りて矢作の
よこ波りして一つうち人の足を休そん
と打ふり俄に風むりして潮上安
うきされ古言ふを
武士のやうの者のあちやくを
いそうと出られ勢多の去り

とうとうれハ只海ハれやうて彩りとう
橋をとをる彩るハ栗りのこかり
角元村と申へ以て里ふて
うかりて五うう井をかりとうて
ううのうのうれハ角元むりの人
野後藤宗の家分ての夜ハ所くを
の宿より角とをとう
ひきりかう雪や去ろうのうこ山

明日八天王ゝ景雲りかさかりの宿と云
歩て行八かとの明たいその森とうとう
かりこ山ゝ山ゝ　やうゝん　屋敷多
老その森のおゝゝのおと
ゝゝ川ゝゝ川おりて高宮と云ゝ
付て里の中川を大上川とうんひゝゝ
程ゝ大ゝ川をひゝゝきゝ
ひけ八よこひけたゝやとゝゝ

ゝんとゝや云ゝ　茅の宿
と行八ゝりゝゝ山ゝ
ゝり行のゝ生業ゝかゝきけゝゝ
ゝゝ弁ゝゝ
水ひゝゝ同ゝはゝゝゝのゝゝゝ
竹波の里と行八学の宿くと云
貴の宿ゝゝ春待ゝおゝ
神物語と云里と人よとん八こゝゝん

近江国の西国の巡りとて言く
の中をかたこと海川のあれ行くまん
とへくく

西国三十三所物語　きこ中まては

このとやいとん巡りあることとやいとん
車くるーの板をその里人と約束れて
よりくるよとことりをあんしくる
者ったりの院不板の関屋の巡

巡りてたりかあるえい涙巡りくさと
行業巡りしよ山而まて巡先をんきれ
巡とい人とこまこて巡りて立ってしし
ドくくハ此国のこあとをとれくあり
とていあるく度作りあとまこ関屋て
ちさくく巡りけして巡りあさ立ちあり
こまとの巡まだたんをこれ三巡くれ
くれ今ハ巡りとて一番の巡製よ

ゆきへて用さへりくめ板ひさ
やすきをたのもを不破の関をり
とうん えいぶつきくてこれら遷出
かつをぶふそれよりいと板の名を車へ
しと云作りかりとろうりこの物語
まるくにうてやりくく紡ハ関を糸より
ゆくくと山ゆを色をきき関をれ
すハかやうう井まゆをへて関を糸

雲井の宿のかつ一面よりけうの物語
ハとてうやーうの紡ゆを汁まりて出
作りをれハ
うやーうの紡さの汁うく庭火ハ
かのうに稲葉山のうをれハ
立別いかうえ先生をうこそん
ゆてとうハ又ゆへりこん
墨役のうをうまりて生ゆの雑や作り

と云のは今ハ川を国界とかきり
て居るハ昔ハ海なりと云伝へ
すハりうう寺をあるをハ寺のまへの
二ハ坊やあるさ名のこりうう
と所にて彩ハ花りの国よりあ
いとしくすさ彩るこハ寺あたり
うめしくうりきのあこれ
あるこのこやはいあり年より知人のこ

うりその人のとうとう云ふ伝へハかり
けり出て先酒をすゝめ作り
吹さ酒をさけや坊ゝさのかんのう
明海のあるくうりて
志賀柿ハとうとうあるこの名まが
三河の国ちりうと云ふ所人へ
は里の名と句の中ま玉て藤の忍を
発句ま世よと云ふれハ

[illegible]ちりうちはらふ桜衣
はたつ山
年のくれや茅の舎にたつ山
[illegible]
水鳥のうくるや矢矧川
二村山
雲雪や二ツ山のまへうち
[illegible]坂を下

[illegible]
しばらく
[illegible]ようさを[illegible]雪の石
月
[illegible]
[illegible]
神垣
又川[illegible]

ふるのうら雲や天つゝ雪のそら
三ヶけのゝまてし
霜柱の雪をやミつけのこるの秋
山坂をのぼりよ
日坂ハ名もりてやまゝ小解
ひよの中山をきてこゆるを今ゆ
くりと行ゝ行て見れハ大井川ゆ
朝こゆり ゆこゝろ人やおゝ井川

ゝ郡ゆりゝ駿河国う津の山よりて
国ゆ入りて雪やゝ降ゝ山
馬ゆ乗ゝ中ゝこの宿よりゝ入れハ宗長ゝ
蔦ゝ紅葉屋寺ゝ行ゝ寺ゝ入ゝ
降雪ゝ一夜時賊何 栄ゝ庵
ゝの内ゝ行ゝ三ゝ府中ゝ入ゝ
の雪ゝ降ゝ入れハ能ゝ
ゝ行ゝ三ゝ有棚ゝ腰ゝ
ゝ三ゝ人ゝ也ゝ奥ゝ海

川きよくして家ごとに無尽あり金童よ
小高くこんもりとしたる所は何の仏か
面をかくして坊つくしやすらう舞
江ゝよ面をさらしたんと体をして
ゆく舟の角のとたくさんゆつて
江ゝやひえたる所に長人
中津まで清見寺のちけいをあつめて
月雪の雲やら清見の関ゝ

屏風やゆのあるまつたたゝ剣
きびかんゝをさしたれば川ゝゝ
ゝのゝゝゝ水底や雪の一ぱく永
川をゆくゝゝ京の里よ宿とりて
のゝ日ゝゝゝ空ゝゝれ富士の大ゝけを
立ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
雲やゝゝ雪の白ゝゝゝゝの雪
雪やゝゝ雪の白ゝゝゝゝの山ゝ

伊豆の三島より下り人の右りこゆのこゝろこゝ
明れハ山中宿を発て箱根の
こゝ也こゝより
箱ひえして坂をこゆ箱根ハ
坂をくりあたりくてゆくこの間十六丁
りあり
こゝ也こゝ世のゆくゑあるゝ

梅沢の里ニ中ゝこの孫ゆくこ
りこゝ母のりハこゆこの
ハこゝひをこゝこゝめゆくの里
小田原ゝ大磯ゝ付
大磯の里風こゝ
い宿の中ゝ虎石と牛のまの
ゝゝ大いこの
いゝへのゝゝ

石をこうるにたをおりひをのうれ
ぶをうの海りまて
のりしてひをうをすんたらの海りが
行くて武蔵の国よりりのの春
すーきこうひらの里人より里の春の
ぶれをとへハ海辺まて行りかすう
浦のあさ面あれハとてひらとうん
ひ作へ作りあり とをり 拾うん

ひらひらの里をうをこの春をすが
ろうようあうあめをあるとに 拾月下
のハ日ハ江戸より行年
京と江戸とあをうかうむ所
をすうだうハ雪をうれさ
翌年ハ海りのとの色ハ元日より
この年くの春年行金柴
ぐのとう

つちの戸のこゝろや春の沙さ稲

元日午うれハ

むさしのゝ月こそ午の日なれ

春立やにかんかてたさ門の松 素

庚子の日そとて子ゆやうひ稲

まゝ先世ゝ

年ゝ

年ゝ

年の日やもゝろかり古沙ゝを

花々梅々のそこゝろの日のかゝ

宣よ梅の立えや神ゝ

なしけゝ

日やもつゝ宿梅や花乃友

きゝ

おゝ生

年ゝ

庵より絵ゑがき賛の香炉のけぶりにほひ
ゆゑしらぬやかをりのうちにもとゝ煙
糸長く去ハ秋のひの細雲にか
薄のりそめや小野の黒煙
ゆゑ入て朝霜にうつる焼野ぶ
百姓たちをうへを思うれ
遠若
のうち世や去ハ夜の長安寺き
もりうれハもへをすゆきのとゝのぶ

成州はゝ山の年と云ハ
宝月の山乃年ハ折まゝハ
青柳ハ山ゝまけうきの山乃ぶ
青柳ハあをもの長の野ゝぶ
かをあらの自ゝり柳ゝ庵伊ハ
おゝろく月や笠ゝ天下
かををゝ若草藪のゝゝろぶ

あせ鳥てさくらちれはにほなが
ちくらの二三りやぬすはなこ原
さくらのひもやそよさの糸柳
はるやとかさん人はる神しれずかりまくて
若草の神よけよ見ゆる御所
あの桜よよめ多ねはめむこ乃山
石はしにはへてそろうとの光屋が
ちりぬるを太鼓とやうつはくし

でえうす八神と仏のとられわれ
ひはそうのきゆるや庚申神の前
闇の夜の錦かけの御所桜
さいまひけ霞のはてのはての網
ありよせてちりのまが竜桜が
冬ささの梅ちるちよぞれ桜
人は花てるや人めりひらし山
桜はかれ花よりだごよう人の山

かけくとすやゝ花ゝ花ゝ
ちさのへ花三をんの日ゝ

西福寺と云海ちるゝ

花番ゝ茶の伊の茶やゝ壹

園のうゝ人の新宅

屋ゝ尾やゝ腐屋やゝ屋作

ゝ人の庭ゝ桜ゝ終ゝ

ゝ花ちさの桜やまんの玉椿

蛾々蝶の花ゝ桜ゝ

永日ゝ三ゝ蝶のゝ孫

永日ゝ梅やゝ梅の立ゝ

ゝ立ゝ日ゝ立ゝ長ゝ日ゝ

三月盡ゝ

明ゝ年ゝ伊ゝ名所行花の去

ゝ八去ゝ山やゝ井立ゝ

反

雲のうへのうぐいすやうぶのこゑ

武は山の中まで

山のうてなの帰部に

さ耳まハ打ふや久〇部に

遠義

咲ゐて一二ちよあじ行こ

一二ちハ花人の名ゐかとこ寺

一二ちハ花さきの〇う部に

一ちのあかの水ぐ見尾ハ

三ちまふハ獅子ハ牡丹の花見ハ

名答ゐ見て猫ひとり名ゐ草

ゐ太敵ちへ人ぐやうこ

ゐのまの四やまりてや方ま立

於前毛猫このゐゐはや猫ゐこの世日草

もものゐりうまて大ぐ川ハ

かとくとく井なのこく門田ハ

猫ゐ見まし山やけて居ゐこ

白ひとへ八重なるくるやはちす花
色こそ[illegible]とその名ハ[illegible]
振舞よりふやあらの花ゐを
指今りこのことりも早苗る
ハ立ハ田草とる午の日ゐが
うこにゐりゐとも毛の母の母ゐ
ひとり乳ひゐ仏ゐ[illegible]やとゐこ所
うむとこそ[illegible]ゐたゐ

大こうやこうこう脇の程汁
蟬やをふやりとひとりひ毛ゐ魚
六月朔日
國をちのゐりゐやふの二月餅
北宅寺の雷をとりう扇ゐ
乃月日ハ西ろハかうた三ケの日
眼病ちゐひよ西ろうて
西のゐろうめ漆きはるゐ

[illegible]
風の口を赤いろうろ扇風
笠かこやもとすす林のうのもと
風をもしくうえ[illegible]土用ゆ
石垣より中へ[illegible]ところや石竹
平水よりまえ[illegible]えんちゝ石竹
茅屋より間ハあやかりうの風
ゆうしいこゝろ扇やうの風

[illegible]ふぐ[illegible]のゆ[illegible]
大夫物ゆ中をゆふ土用ゆ
百日の白ゆ井ゆ花の鏡
日のもとに住ハ暑さ石垣ゆ
赤漆の酒やさゝめゆ辻ゆ風
ゆゝの一重より土用ゆ
数ゆらゝゆゝ小家のゆゆ
ゆゝハこゝりをくゝ活ゆ

戸障子のかうをあらやなほる

秋

千里やふる文月の寺のわり
なる島と六三月八幡ととふ
文月の亀脚やさむしりの関
文月ろ山ろとすろ書院が
文月ろのむしろての山中ろ
下葉ろ岸根や波の柳ろへ

七夕

七夕の笹指ざしやを七ろれ
をを露ろ牛ひくかのろ天が
ひろ〳〵とかろ竹ひちろ高ろろ
天の竹ろ竹ひやすろ天地の
東路や廿日い中のろの月
人間も水ろうろ世の一ろ風
ひろろや雲ろ天ろ秋のろり衣

遊吾

朝がほの花のいろこそあさけれ
なくこゑのみぞ新しき
四方をぞ分まし山にすり酒
ふる草ゆゑにかくれこの
ぞ草の中まぎれゆゆ男草

八月

長夜やうたたねさめの耳かから
のぬるひの山田かな

海ちかきまちはこのこのこのこの
雲風のひくやそそ寒うれのこ色
月の夜を平はうりよとりけりか
月ちのいろさはうたたこうれ

名月

夜月をみるこの月のみちの月の
れはかよ一輪ぞそうふうひみ
秋もこころうて兎やうふうち肩

月しろはよりはかうつくしかりしかとこゝか
八ツ半と云事の度よ行道ハ
色行くさハ八ツ半をたこのさくるが
九月九日江戸出発岩本寺へ出りて
出発まつり　引神の香や菊の
月十三夜
かくしとて心を西の九月見が
山あるくてゝ歸や立田ひめ

行山寺へ行りこゝ行道ハ半ばふる
とものぶりなれハかくるん
筆ものて本陣をかくいろたが
りこゝの釜の森の庵や紅紅
りこゝ見の時雨まはしや来ぬ
ゆ色りそもり河西りこゝし
りあしハ時雨のそめなりこゝが
玉屋人の寄田をて行りくさ

[illegible]の親子ここなるその家より進み
[illegible]焼ころされわらわらの
[illegible]
ひのくまはやさこめよりの田工堂が

冬

ここ元日をもかの朝日をりめられ
神ぬのうの[illegible]あそいたもの大社
ぬけそそぬとやたさのの[illegible]

あへて世八伊法[illegible]よ神世日
あるのぬをそ日をそめ物ゥ夕何雨
[illegible]や時雨の[illegible]
[illegible]に[illegible]を[illegible]天物が
[illegible]の名八千[illegible]が
下ひそをうやひんかりの神[illegible]
[illegible]人を[illegible]
[illegible]霜の日本梅
[illegible]ひの本や冬の宿

賀茂社の四のこのまを出て行きつゝ
ふりまさるけぬのひけてゆきぬるが
すさまじ今朝あさ雪をみる茶ゐんが
水たるやかくこゝ雪のすがり
しら雪神のうへにこの野が
ちりくもよ雪やとゝ上あり友けり
こゝあくるよあのやの小神やれなこり
ハれしさらやをこゝかりけさが

すさまじ山ちをうけ玉ちさ
年くよ蓮ちひの山ちすが
すさまじハこゝよけ西ちをうが
うつ大豆のを為やうふ年ぬ蓮
ふりくり蓮を三ちを蓮の門
晦日のふりひや解て年ぬ道

付合こゝ白河の関の梅の匂ひを尋ねて
花の
義経者や小ぢ
よこ
一つ
りの
花むこ
ゆり

青柳を花ちりぬその
春日の里ゆりこえ
みさせん義経
にくしくしてゐむ
ちの小神
ちりぬ世の中のてい
春の日を千里
花一町の面

朝ごとの日新行者の宮をえて
方のそれくさ　事を乗り
こゝろふとふ西つさたすうかはれ方
ゆくて行水のむ八ちます
ごとちうと去の江田へちやりて
花八きゝ木のめくすけ漢子て
去をこゝうえうり行ゑ山
うしくゝの手を八ちりり

おりて山のさきひたる井
波こうたいの行をゆへり
かり出す三ちゝ八土ま西ろて
ゆゝの中よりやそ海まろ
平野の君ゝ信の国をけして
去とハ以へと去ゆさて世す
こいえんのちさ八日まくゝさ行て

友

ゐてはゐふうをゐ
剃りやこゝろをへてはゐん
反末ゐ名ゐとゐらあしをする
とこゞよ巣鷹ハ海くとき法り
行名ときことと帰かとこゝす
市ゐこゝ庭の和花嗅ゐゐれ
ゐこゝゐハれゐの志ゐしく
ゐし世ゐ本ゐりや汚れて為ゐん

ゐこゝゐゐこの行末のゐゐん
ゐ立ゐ苗出来ゐて行り
引出ていハゐしゐ志ゐ行り
ゐゐれゐとゐ御の池よ粉を開て
日本のゐちよゐかきゐゐ物
為居立ゐらのゐゐの歳ゐ
汗をゐゐて風呂へこゝ通
ゐゐゐゐのゐゐこゐあれハゐこゐて志ゐハゐ

うしろ山つゝれくのこゝや
水無瀬川とりとゝやし垂
まれのいはしる蛍ひかり
ゝ
ゝ
ゝ物を車と立ちゝん
ゝとゝかりなくこゝ
ゝ物ゝゝやこの夜の移り舟
流ゝゝゝゝ風ゝ肩ゝゝ
夜の茶ゝゝゝゝゝゝゝ

水ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ中
瓜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山工ゝゝゝゝゝゝゝゝ入
祇園ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
四ゝ何ゝゝゝゝゝゝゝ

秋

門ゝゝゝゝゝゝゝゝ

秋の月てたりし萩をやはらめん
竹乃はをもあらすらひく
秋風のたまのをかはかすかに
この秋はなをもとめふ淀の里
河湯をうつしてふるあしの
有明の秋はひらくるやこそ
大ふつくとをもすも秋の夜
菜のをとをよは秋乃百姓

稲穂よ田の三ツそ萩ゆり分て
すさ面しくむ八青き兎のつ
形のうつりて蕪をもけらす
ちむとして乃りもよをとうり
ゆうれ弱をのうをおーろ
ひつをそのうつるをもよもろる
石風呂八乃そて赤ゆうをそ
扇をやとをすもそて明をん

おやの数と考へふるとうかうな
夜ながら老人と神入りもあや
大作を二八月はかりにて
年八とてあらハたの年
古畑の畦を四里の秋のそい
すきを作る紀の国の川
伊勢鯉八行こきの行こたの形色
草をまけてたうをそとろ

色とり峡こそめ山さの菊折て
なりしの形かさをそうつ
高ケこそ山うへきたのたの道
稲穂ちうよ月ケ山ケ
ちこちや秋ちうこの国さい

冬

悪ケ山ケ出て山ケ山ケ
海まや今そうこ垂よ神ケ月
ケ里ケ奥ケ

えぞぢうのこめの鷹を鷹ハうり
ものくとめくらはつこさ
水をいてハうふ矢ハろのよ
佳を以て小野のかれこち
庚寅新　年貢のるさにせう重て
ハ也山ハ海てをくらかはま
鷹の尾を下手のさへやはたすん
かれ布のるんくをすり勝なよ

ふの郡のふのはむさよ
霜りさこえてやたかさ壇の音
あるをを冬をりはたらし
そそそひやすハ三月人のさ
れミやこうちよりかを重辭
山えハ山みを山めくり
河雨て鬼山りのう央の車

積りあつまりて人ときを過
かりけるのとものはれいまへ
月の光かくこそかはれり
そこなりの口をはれハ汁うて
ものうつりやくこの中
やはなの上書をよまさるそ
ものとうへかりたるく一寸
かはをうをめとをクかの花の宿
はけをたをたをやの口ををや

伊勢をものやうあの夜なりをん
うくくと登ハ船てまをを
一やちををハをりををををを
おりくくのくのをれくく
ををくくと雨のをを夜の物をり
園の夜をりをを西ををと人を
あををすへををあををををれ果をを
はをををををををくをのををや
ををひをりををくをのををを

二つあさ命をはらんと意のごと
くなるさま〳〵筆のゝ〳〵
上らうを下らうと同時なる
ものゝ上りとちがうかのたゝよくん
かとけたりよむひこれかを
ゝたゝしを祇王ハ君よ捨られて
すまうの海へ方をあけてゝ
かゝくんの三のむハゝの関のゝよ

ゝゝかの中ハおとこよそゝ
ゝゝ寺の二つのりゝかり立て
ゝゝゝゝべてハきへをひろ
殿作りかりその庭ハゝゝに
分をゝゝさてハせいを出さん
海やゝやたゝゝあゝゝゝん
ゝりのゝゝゝゝゝゝあゝゝれ
火あさ作と明ゝゝの出ゝ

[illegible]
[illegible]
雲のうへまを高やかにて
夜ふくまはうかハ天は夜ひ八月
とりくとと祇園のあり火
目うれをもハしきくはよ西ゆ入へ
すりやうまたの西夜の鐘の音
鈴をうれをもうれをもうれし也

[illegible]
一ゆ[illegible]の上那よりあり也とすれ也
平行ゆうれをもとうとうと君
友視の焼うをうやうなり
この西の書ちうりあり人
平を白き解剖の加ハ花ゆて
うハりうりを三ハ花とうて
つう業ゆて夜ハ茶入まて

[illegible]と前[illegible]ともう神みて
二町〇ばかりすぎて里の中川
[illegible]や名をこそけいやの石
高札ハ江口の里よりもすぐ
月ハやすて二重の岸の三ヘ西
[illegible]
とりの山のふもと
けをすぎて[illegible]〇をひろ
異豆腐の平三郎
[illegible]

雜

玉札よりひろへる狐まれ
ぬけて行方ハ山ちかきすぎ
海中へ出カさやりれ丹のうへ
[illegible]と[illegible]ひそれく
ゆくたりこれをひろたこ賣
世をのれてもを田子をにかへり
[illegible]汁よ[illegible]くて海ハすもの神
三のあるまて[illegible]ハ南ハ[illegible]佛

百八の毒すなはちめぐりくげんぎ
かりうつるとハこゝの所をと
大きなるを目をやこゝのまハ手をひろ
うけたく法を屋ゝのうつさ
ゝこゝをぬや水つけたるハこゝろうん
世の中ハ法ゝまりこゝろて
ほうらの竹のこゝろてあれ
一ゝをこゝろよ生すゝ色てよ

をのうはゝしくゝゝ尺ハ
死ぬるこゝを知るこゝハ分量
千年の中 墓ハ物をゝ
仏ゝ所をこゝ所こゝてえこゝる
目の玉ハ上ハこゝこゝよりこゝ
紫うの中ゝよりゝ西ぬん
ゝゝくゝとゝくゝうえ竹のこゝ
毒こゝ人毎こゝこゝこゝ

[illegible]屋のかのかたちて
はかりしらしまらふ[illegible]舟
あのうりと海の[illegible]くらはの男色
[illegible]やうに[illegible]はらやらくさ
あ火焼のやかい[illegible]や[illegible]
あそこたうこ[illegible]にかゝり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

千里をりれば波のやうな
[illegible]のたゝうち[illegible]の[illegible]
[illegible]四七[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

時分のさきまて所たいこ
ゝくれそうの紙の地そうい
竹陸を舞基のそうゆまじ
業にて二そこれ死よ道
人うゑやうの焼炮よりいかん
やまいをそうそうえん形まて
業ゝ　はゝふ人のよ八のよ
そうの四前てりをかそり

ゝ出の酒のほうかやうびかん
四八道八行ゝ行ゝ行ゝゝや法の場
ゝ行ゝ行ゝ八ゝのゝや馬
ゝ行八ゝと法のゝりゝ
法風よ再ゝゝりゝ祈ゝ流
めゝれ八結四一ゝのゝの
名家にをゝくゝれ八車僧
一行をむゝゝりゝふのゝの世

[illegible]きの君よ仕へ人
なりはりの人の姿く
のかりよハかひくしく節をて
ほとをやかさゝ上の石こたこ
くくあれよとをうすしかけ
平をいろけはくるしこそ
二童子を作りとへうの小屋
何うをくきけんぞとや

大根の汁おそけやあるうん
こんぞうあるうこうハかりは
よこ笛の作へ所やゝき祖とりは
ゝうしくくをし山りこそいま
ゝうハやこ所ぞかひ所を鞍馬寺
かをこそこそかんへハそれ
山ハ山やこの夜丹のをんこよ
子うたかをのそきこうあり

ひつさう的いひつたち書きて
碁盤の結ハ四度の集り
指言や信の法さの所ちて
たとうめうハ山をゞ寺
むしく小の花れう島
人とあハすりこて出て法のと
角んちうむのひりひつ寺
ちりいさ人のひりはま

法師ひつ積聚よ計立て
物ちに禄を行てこて氣味よ乳
たうさを取ちく西ちれうまひ
石くとうまれくよ不
食影のだこをひへのひひて
にうくしすこのかをひ立て
ちりのひうひちれ竹垣
甲の上をてて半月

まいゞの舞を屋しき夜に入て
扉のかよとかゝる物あり
うつくしと屏風を立てうらハ讃
あらて先よとそひくに紛
若子の高祇ハ里ハ振立て
千入り千と引て由かるく
阿弥陀の棚に出し西風車
南無阿弥陀仏えることあかり

ゆつちりとおふしきてうことあて
いとやさしく見きゆるよりめされて
前句を一出し揃て作り初席に
今句付て成り平

そろ大成物にしより付にかゝ
露の河長さに鴨ハミうつくして
流れくる逸起ハ屋るを河流置て
花ハこそりハ老若男女二三子わて

地ゑひよ今云郭公入間ゑて
宮人ゑ下戸を上戸を八公
ゑ法師をとゑ念仏八河京寺
寺町ハ宗九宗だゑて
聖ゑひとゑ牛と馬と八ゑ
朝市ハ京の入こゑ
物ゑふハ一市ゑ
京ゑ日本のゑて宗ゑ

婦人八ゑゑ入こゑに
ゑたゑん絵の俵の上ゑ下ゑ
ゑ小神の中ゑ
将碁ゑて
ゑんゑ碁ゑ
ゑ文殊のちえ
婦人八伊勢や白河の物ゑ
ゑ八ゑ書ゑ
言ゑ三人ゑ

色この女中うり愚女、酒をかて
大小やえいたうこのり丈出て
ゆるゝ事よ高しのり年寄生
学ゝうかゝを出て高ゝへ
短冊八古業新業を書て
朗詠ゝ詩ゝ酒をゝ高ゝ
ゝとりよ八ゝうゝ扇をひゝめゝ
ゝとりゝゝうゝやゝ老ゝや祝利根

ゝゝ小袖ゝゝのゝうゝをかゝり
大臣のゝゝゝゝゝ上位ゝ位
下知ゝれと武者のゝ形八ゝゝは
書ゝゝゝれゝ先立新写ゝて
客人の中よゝゝゝ八移ゝし
猪来よゝんゝゝゝ神主能
浦のゝよ唐焼義移ゝ
陪のゝ形ゝ松よゝゝよゝゝゝ

[illegible]
進物は[illegible]米二升くらいのこと
[illegible]うりとき値を[illegible]て
[illegible]たりとも大福帳
[illegible]の面々
[illegible]
[illegible]帳をもたせて
[illegible]

牛車唐車都合車より四馬乗物
[illegible]
[illegible]
茶屋[illegible]は[illegible]古茶新茶
秋乃野は桔梗[illegible]女郎花
鴨をゆく野への雲雀の[illegible]
竹よりにゆ[illegible]

奥海千句之抜書

千一名而誹諧

塩竈の浦や伊豆の山
黒くもりもみじ一の子
武蔵野や芒草ちこみて
うりの流れそ一か竈の浦
人持や跡波まちよ叩れん

[illegible]く行によいう山嶽
老高より天物をうふをうれ
月のうつのたとこうよりて
八幡山風ようかたをこうへし
さいくよ上れハ下れたて字
あ長の君う行清宇の浦
ちうしのうちにそもう進物
小車のうし西とを出て京上り

[illegible]をたふ屋とく
稲食ハ[illegible]ハ[illegible]して
石竜うく花をれの長濱よ
秋をく今うう屋う山
月のうさ風のめいのよ西風
ゆくさたをうてハいさの素よ
うう家に[illegible]とたとうく[illegible]山
のうへの十五夜の月

[illegible]原の奥やまゆん
[illegible]を[illegible]方ハ屋もの人
[illegible]山の里よ掛かて
[illegible]こゝろ地水
月を[illegible]やみ[illegible]とゝすて
家[illegible]ん[illegible]都ハ宿よ山の陰
[illegible]や松まを屋かよ[illegible]
くれて[illegible]勢多の橋くわ

関の地蔵の[illegible]とゝ也
六道や[illegible]こうの原[illegible]川
右馬ふて[illegible]の[illegible]川や
[illegible]の[illegible]
[illegible]井戸[illegible]屋[illegible]
[illegible]や[illegible]里よ[illegible]
月を[illegible]朝起[illegible]
入道ハ[illegible]宿の戸よ

加えくをもさだめ参らせて歌よ
大すけのまくらくをうたへやま。
ちくくと酔て伏この里うらし
未情へよりて島をこそうた
ひくくと蛍ちくくて初鹿風
ちくくすくし　末の三輪川
小家の折の板ちれの志ぐく
咲花をうたいいくさの茶屋ぶし

戸二編
花の姿　役者よりせりふ川
高砂ちまり　玉のちくん
ちすみ波をめの出窓より出て
ひくちかりうしてちくふ明蓋
下ちくたをうぬ庭の乗車
三月三日　板の大木
今朝ちれハ書風ひりやはくん

うつてあく宇治より西さて五六丁
二人一ぢやうたちもとむかしとも
清水や花三たつあふ田村さう
そのりぢれてつもむ烏羽
露をまけさうえびさうこの笠
武蔵野や秋ぞもさき長かくる
菖の葉のうつりかはりぬる
大かうさうやきもりけうさま

秋のはのりハうさあ岡寺よ
かまきりしてはうくセタ
ぢうさ論しく三八寸ぢうり
俗色の紙ちりけ秋葉ちり
ちりハかをさ五稽を古き物語
方をあけかハぢのりり用
生白川ぢうきの人をとあ塚
ぢれハさんれ弓矢三つを

若手の中より咲しおもち杠
紅より折鶴の梅ハかつ元三て
のおふ梅植より東の常
波りやこゝによりの岩一冊
さらに河中よ河こきの綱と西ハ
さ流りし舟遊こそ三線し
また夕すへて紅ばかり山
ころのまりや河もれそり久

いのりとて千年のちぎりたのもしく
月影ハ三輪の杉原にかゝやきて
十市の里のこまきの浦
秋風よ賤山うるや竜つらん
井筒のうつて千水流入り
岩出し宮ハすゝきやの中立よ
こゝのまくまふハおしつけ
のほさくにほこたゆ丈し花さくこゝ

白ひをちらと申れ梅の元

戸三源氏

長の日やひうれんしの物語
さけをうるせハうふ梅の元
よこ笛を吹をうまうの調子て
多の所業ま西行ひとり
舞央とり梅もくと軽やつあん

山ひけハさくさく日を雲の元
秋のかりの見て中書
本の業の所地ちハ主
をうれまうれ三ちの四元て
屋とりさ所うの尺ま風風
明石より形さそまうの位吉ま
七母の章ハ所周ちのそま
ひくくと神ま花ちう里かう

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
春八先[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

物やうたてその[illegible]まハ[illegible]果
さくらひの[illegible]を行[illegible]がもし
[illegible]ハをはるかに[illegible]花のえん
らくとこそふよ[illegible]時を[illegible]て
春の行ひ[illegible]美のうきり

廿四日之路
りゆうや物[illegible]のさき

[illegible]すー[illegible]行ー國の[illegible]
満九分[illegible]月はうえ[illegible]て
蟹をとる秋ひろの庭
いけたり板くり波の[illegible]
行ひれ出てうこく[illegible]戒
たそろや[illegible]のそこ西ハひろめて
[illegible]の[illegible]ちく[illegible]ふ
ゆきひろくとちりおりる也

白うこのあけぬるうきをぶるさん
山のはてをも月はりこそ。
秋ぶ　して　牧る　ものを　長き夜なくよ
そうのあくをこそ　さむ　秋ぶ
いたうさて　平安城の花ハこん
ひそ　梅ゥ　香の　二王三帝
あへての民ぶ　のむ　三ゥ　さけ
ひんあべの　ゆ　の　市人　ゥ　とめ

末永ようて　借　後ふハ
国　弘　れと　すこ　ゥ　て　り
君の　為　成　ハ　ば　ゥ　の　ゥ
百　ゥ　を　富　治　と　ゥ　ハ　ゥ　こ　ハ
ゥ　ゥ　の　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　て　行　光
ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ
巣　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ
年　貢　ゥ　ハ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ　ゥ

ふる代なる事のたゆらい
蓮のかとけまたゝ身を捨て
ふるゝ御寺の名を千手院
成高き風のをとゝの山けよ
長久まいのうちをゝ身をそ
寿命とおもふ心と勢の中
高安へかゝれる法さのゆうん
雷山ゝゝ夜をこゝふゝ親傳

月ゝ春を酔の成成
ほゝさをゝや賀茂寺のそゝをゝ
さゝゆゝ氏吉とおもふ神ふ
代の為法と御ゝ生れり
さゝかけゝゝ丹左則ゝ
振人や行満ゝゝ
ゝゝにゝゝゝゝ助成
大破や宗安ゝゝ

[illegible]の[illegible]ハ[illegible]花ハ進ぬか
[illegible]成月の[illegible]とこそ
[illegible]やうらとそ安細
照月[illegible]の松本の景長こ
[illegible]の秋の[illegible]ハひろ行
[illegible]のまたにさりとそ[illegible]や
[illegible]久吉といふこたま

戸五業種
武士のこりや長刀香蕃散
[illegible]魚鱗霜乳
大きの図のおたそ直かて
[illegible]そこの屋本
沈香すまし西[illegible]
波のうへひろ[illegible]
[illegible]の[illegible]

中の枝をこのみさいく
一えだとゝのをく花よりて
たゞちに見えハ二五三きゝ
高島の名ちハ三ん名
きこえを以てく板の半天
錦きて　をしめ給ふ　結搔笠
月ゝ　ゆえつもうて神
ゑ数をゝの花よ折られ

ゑむ山ゝ　ゆうゝ
世ゝ根をゝ　玉のもゝ
明ん　ゝ
いさゝ　ゝ
数心を　ゝ
ゝ来迎を　ゝ
ゝ花ゝ　ハ
こゝのゝ　ゝ

さいたんちと高野氏宅来
屋ちらりせしハ月光山
ゆかしまに西とかし武者
行のくさ山業がごひのちひた
ちうちうちうちうよりく世角ちく
ちうハちい九八きうのけ
風のをとをぢうかと時八月ちこ
行ちうとすれとけけ西の夜

金銀花ちうちれちさけ
四つのりうけうこのりよけんさて
花のこやこをを指ちうひこうり
ちうけうこ二三けうまう水ちて
三けうてうハけうれしつのめ
西のこや高ひをのけうハたいこうる
春のたちうこゆうけうる
人参汁て以ちう会席

史君子を一の上座へ
たり形紙てちよ色いをそすう
ふくつ
ぬ石二の位へのとう
ゑをハうとと去ようひのも
天下泰平　岡玉芸貴仁

第六忠歌

分野野やむさてうこよ書出
尾花河　元よのの島のうへ
秋の日や　の河ゆこさうん
春ゝは　ゝれうの心あて
てん初んいのちかてうて
秋の去やせこを立てにきん
あ山ちいあてうん　大雪

ちゝゆゑにこのうちの雛ぞ
ちかのうの奥ハこがこうもり
大せいの人ハすこの中ぞとせい
ちゝりくとも月ゝ出ゝ
雛もの小蝶ゝ花はたゝぬて
うちをとをしき神ゝ神こゝを
りゝ中や宮ゝ賢ハ者ゝて
ゝゝひゝゝ竹義のまゝ

ぐ〳〵と寄の京ぐて異
月ゝ人ゝ
元ゝ三ゝ年ゝを出ゝ夜ゝ内出
常ゝ
花ゝ
ゝゝ
まゆ
ゝ

すいこうして　ハ　ちやの　目を　ひらき
ちを　ちれ　ハ　ちう　ひり　出と　ひろ　さ
ひろ　ぬる　ハ　ちやくまつの　ぬる　獅子ハ
放　家　ハ　たち　と　走り　かり　ぬる
ひこ　ぬり　や　雨　ぬと　の　けつ　ぬ　の　弱
西　氣　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
草　ぬり　ハ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

四　筆　ぬ　ハ　驕　驕　風　風　出　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ハ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ハ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
屋　寺　ハ　家　の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
何　ぬ　の　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
野　ぬ　ひ　の　や　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

第七草末

ここさこうく末賦や月の加こ草
あられはつろふこうのま
はかのうらは秋の紅葉をかさこ
まのひくさにこうハけいく
朝鷹のすこうこうとはうこう
こうろくるたちう柳いくと
猶のかハ水ハ月くま色ケて

こうかうこうこうよ百こうの秋
かさこうこうこうハ白の月ハ白のこう
ろうこうをこうのの屋のハこうさこう
琴こう弟の祇ぶや宇治の山こうれ
幸田の郡ゆこうこうこうこう
中風とハ屋こうこうこうこうこれ草
こうこうこうのこうそもたこうこうこうこう
こうこうのかくこうの行こうの前こうれ

ひろめりけるとうの錦は
かぞ布のいとうつ家と折り芋
とうその森のちりけをいや
剛ふかハけるあをたてけるくし
岩戸のまへてうふ柚は
神さと乃こゝけれたやめの華の神
りりりとうけてけるす紫
とあり咲を五月五日の物は

この年つとうの神ちけうとを
世の中よ中むハ人の芋ものや
むらの宿ちせやうちけや
唐さとうの物まてさとうの神ちさ
たうをハのこけちまて千生
とうハ山の鬼のしこ草
作り花や長の世中の玉の枝

戸八意命

ちはやこの葉末よのかぎり紅葉錦

月のうちさう波の三ら湾

秋の夜よ龍宮鶴音の弁潭

笈経の中ゝ西れ琴ゝ

遊海ゝ牛よ雲雀の立ぬき

車のよこゝうもしゝく

井くゝ井ゝ竹ゝ鶴の老よ

ゝこの名を中ゝ人へのよ

ゝびの力ゝ水のかゝよ以て

天物のかゝりゝ弁奥ゝ高ゝ

ゝゝと所を蔵ゝ八敬ゝ石

ゝゝ八鶴ゝ竹を素盞雄ゝ

ゝゝこのよ鶴毛ゝ三ゝ

ゝゝゝ鶴ゝ三ゝ

竹ゝ八ゝ形を抜ゝの西ゝの魚

いくの名のるのちさりうら屋も
里くハ回作りを出てにけるは
上ゝ義丹とゝしゝう代度
坊波のにゝりよ寺まあ天守城
赤川寺ゝ丹よかけう三ほこ形
さゝ乱よハ花ゝたゝす花ゝを
ほもあ口あうまんよ行ゝさよ
ゝ寺ゝりゝまうゝゝゝ清

波のをとゝたゝゝゝの塔のしゝ庫
物ゝりゝるゝやゝゝゝやゝことり
毎ゝりめすゝこの三ゝゝゝの亀川
りゝゝゝゝゝとゝくゝゝのゝゝ
四ゝゝたゝうゝふゝあけくゝ坊道ゝれ
おりさほゝゝゝゝしゝゝ石りゝ
ゝ行法をゝゝゝうゝゝゝ仏法僧
寺ゝゝほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん

[illegible]
[illegible]の祭りこれなり
庭のすゝきに[illegible]を拾て[illegible]
なりあふまてすゝき百本
花の[illegible]のはをたゝき
大[illegible]やゝく藤原

第九鷹詞

[illegible]山より[illegible]
雪[illegible]せこゝを[illegible]の人
[illegible]持帰の神[illegible]
野へ[illegible]尾[illegible]
拾よ[illegible]今[illegible]鷹
[illegible]
[illegible]

那かこゝろ出て夜ゝあさとをよ
年八尉の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ぬハゝて[illegible]ゝ鷹
鈴ゝ[illegible]出の[illegible]
[illegible]ゝかゝのゝ秋の花よ
[illegible]や[illegible]長栄よりは
四すゝ[illegible]ゝふ鷹の逸物
よゝゝかゝゝいゝゝむこゝ

余[illegible]ゝ[illegible]ゝゝ[illegible]の[illegible]草
ゝの使の[illegible]
回くを[illegible]て作る屋形尾よ
ゝゝゝゝと[illegible]ハ石ゝり
[illegible]ハ[illegible]ゝゝ
[illegible]ゝ鷹ゝ[illegible]の秋の[illegible]
平ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]縄
白[illegible]の君ゝ[illegible]ゝ鷹の尾よ

その[illegible]の[illegible]
こちらすぐ[illegible]
川西より[illegible]
かも屋の[illegible]
山の神より[illegible]
[illegible]の[illegible]
禁野のこ[illegible]
[illegible]を[illegible]

著屋[illegible]
[illegible]
雪見や[illegible]
[illegible]
古[illegible]
[illegible]
[illegible]
巣[illegible]

ぞんじうけたまはれせこうへれる
ヤりうくとりしへてきてハやり廣
ちの○えきの花咲海れむりうろ
ホをはちちおえよせもりるりさい
水ヤうて月りさするたりたなさ
るりとに起てハりう朝ちへ
絵てこよりの日の紫の花はく
右りを廣るをちゆりりへ

廿十茶湯

雪ヤ花茶の色白し朝日山
ちゆりさ川ヤ三の月のう
川風ヤはさはけ高ち吹ヤ
神すりの雲の下過たとくし
乾石はふふ寒の何とはさ
暁の月を月ヤ口ゆ
露ちりうしいかりぞうの

三十日のあけをかすかにほのぼの
と明やうに成ぬれば平水時
すぎぬるのかこりのふすまく
ゆるまあるに仙の末うつゆ中村
さもしきうに月八ゝ末つゝ地宿
あけ部中ゝて名こりの宿
四十石ゝうの田八ゝうすぎ
ゆゝのゝ名ゝへうしすけと云

ひとりゝて形ひさゝゝなる大ゝは
一ゝ中ゝ名ゝ七ゝ中ゝ名ゝ七ゝ中ゝ
庵ゝゝ名ゝ八ゝ重ゝ八ゝ茶の中は
すゝれゝ名ゝ賜ゝ年ゝ自ゝ
ゆゝゝ名ゝゝ中ゝゝ名ゝ中ゝ名ゝ
京ゝ名ゝ八ゝ寺の不審
ゆゝ池ゝ名ゝ名ゝゝえんのうす板
庵ゝ名ゝ基すやかゝゝ平ゝん

中よりの香炉八方に
なをとけり天のりて
伸風をミなく文殊の玉垣よ
獅子をはなれ獅子の金
ムをいさなうに集り来や廻花
風拾ひなさうもし三のい

追加漢和

寒月　誰ヵ　氷餅ヵ　三江
雪を粉ふりて山風鏡
明神や石ふみとをる月

右漢和折紙陽建仁寺ゟ
参長光武江下向而不堪
年令別章句を以て西崎ゟ百
韵ゟ作りあ文多ゟれハ家ゟ

八年三月十七日書記畢

筆者は此頃よりの作りなり和歌
世間より肥前癖と云癖なり作者は
肥前癖なるや歟又は肥前より
出なるとなるべし心はなりよ
書日常なりとて南都西望寺にて

馬しい縄しかて西なる奈良法隆寺
なとなる名しなりまつりとなる

此上下奏愚作誹諧之数句
凡八百二十余句内付合八百余句
狂歌二十首記置依貴本一

雖辭奉向條秀寓而已

寛永十年
十二月日

藤孝公

徳元

ふるさとの
人々

アヤキ
ふるこ